

## P2-005

### 小学校入学時に発達障害のある子どもの保護者が望む支援

古川 恵美<sup>1</sup>、岡本 啓子<sup>1</sup>、高木 裕美<sup>2</sup>、信岡 理世<sup>1</sup>

<sup>1</sup>畿央大学 教育学部 現代教育学科、

<sup>2</sup>川西市立川西養護学校

#### 【目的】

発達障害のある子どもが、幼稚園・保育所で受けてきた適切な支援を小学校でも活かせるような連続した支援が求められている。また、新たに支援が必要とされた子どもがその支援を受けられるように学校と家庭が連携することは重要である。今回は、幼稚園・保育所から小学校への移行の段階で保護者が望む支援について明らかにすることを目的とする。

#### 【方法】

発達障害のある小学生・中学生の子どもの保護者45人を対象とした。質問項目は「幼稚園（保育所）から小学校に入学した際に子どもが困ったり戸惑ったりしたこと」、同様に「保護者が困ったり戸惑ったりしたこと」について自由記述で回答を求めた。保護者が記入したアンケートを項目別に詳しく読み、内容ごとに意見を説明するテーマをつけ、類似するものをグループ化してサブカテゴリーとした。回答の中で多岐にわたる意見がある場合には分割して複数の記録単位にした。さらに類似するサブカテゴリーを分類し、カテゴリー化して命名した。

#### 【結果】

33人の回収を得た（回収率73.3%）。子どもが困ったり戸惑ったりしたことについて記録単位を分類した結果、【人間関係】、【生活面】、【学習面】の3つのカテゴリーが抽出された。人間関係のカテゴリーは『友だち関係』、『コミュニケーションにおける不安』、『教師との関係』のサブカテゴリーから構成された。『友だち関係』は、[知らない子や親しくない子からキツイ言葉を言われること]、[言いたいことが言えなくて友達を噛んでしまった]等の11記録単位。『コミュニケーションにおける不安』は、[人の話が理解できず不安]、[友達との会話についていけず不安]等の4記録単位。『教師との関係』は、[先生の怒りにおびえて不登校になった]、[先生の指示が長くて難しく、うちの子は覚えきれなかった]の2記録単位。生活面のカテゴリーは『忘れ物の多さ』、『見通しをもつ難しさ』、『行動の遅さ』、『整理整頓の困難』のサブカテゴリーから構成された。学習のカテゴリーは『学習の遅れ』、『集中の困難』、『宿題の負担』のサブカテゴリーから構成された。

#### 【考察】

保護者は子どもの人間関係について心配し支援を求めている。また、子どもの様子が想像できないことも不安要素であった。個別の教育支援計画や個別の指導計画を確実に引き継ぎ支援に活かしていくことが重要である。